

みと・あかつかカンファレンス

差出人: みと・あかつかカンファレンス <admin@kankan2025.jp>
送信日時: 2019年3月6日水曜日 10:46
宛先: 'koho@riken.jp'
CC: '日本栄養士会'; '日本医師会'; '日本薬剤師会'; '日本歯科医師会'; '日本看護協会'; '日本理学療法士協会'; '日本作業療法士協会'; '日本社会福祉士会'; '日本介護福祉士会'; '立川 晶'; '朝倉 洋'; '生田 弦己'; '江川 剛正'; '佐藤 仁彦'; '越田 普之'; '平野 有紀'; '大林 広樹'; '茨城県警察本部'; 'クローズアップ現代 +'; '湯川 英俊'; '池田 剛士'; 'hokkaido@yomiuri.com'; 'hakodate@yomiuri.com'; 'asahikawa@yomiuri.com'; 'kushiro@yomiuri.com'; 'otaru@yomiuri.com'; 'kitami@yomiuri.com'; 'tomakomai@yomiuri.com'; 'iwamizawa@yomiuri.com'; 'aomori@yomiuri.com'; 'morioka@yomiuri.com'; 'tohoku@yomiuri.com'; 'akita@yomiuri.com'; 'yamagata@yomiuri.com'; 'fukushim@yomiuri.com'; 'mito@yomiuri.com'; 'utsunomiya@yomiuri.com'; 'saitama@yomiuri.com'; 'chiba@yomiuri.com'; 'tomin@yomiuri.com'; 'koto@yomiuri.com'; 'musasino@yomiuri.com'; 'tachikawa@yomiuri.com'; 'hachioji@yomiuri.com'; 'yokohama@yomiuri.com'; 'niigata@yomiuri.com'; 'toyama@yomiuri.com'; 'kanazawa@yomiuri.com'; 'fukui@yomiuri.com'; 'kofu@yomiuri.com'; 'nagano@yomiuri.com'; 'gifu@yomiuri.com'; 'shizuoka@yomiuri.com'; 'chubu@yomiuri.com'; 'tsu@yomiuri.com'; 'otsu@yomiuri.com'; 'kyoto@yomiuri.com'; 'osaka2@yomiuri.com'; 'kobe@yomiuri.com'; 'nara@yomiuri.com'; 'wakayama@yomiuri.com'; 'tottori@yomiuri.com'; 'matsue@yomiuri.com'; 'okayama@yomiuri.com'; 'hiroshima@yomiuri.com'; 'yamaguchi@yomiuri.com'; 'tokushim@yomiuri.com'; 'takamatsu@yomiuri.com'; 'matsuyama@yomiuri.com'; 'kochi@yomiuri.com'; 's-syaka1@yomiuri.com'; 'saga@yomiuri.com'; 'nagasaki@yomiuri.com'; 'kumamoto@yomiuri.com'; 'oita@yomiuri.com'; 'miyazaki@yomiuri.com'; 'kagoshim@yomiuri.com'; 'naha@yomiuri.com'; 'jbs-ho@jbsoc.or.jp'; 'nihonpta@coral.ocn.ne.jp'; 'webmaster@shodanren.gr.jp'; 'webmaster@coj.gr.jp'; 'info@kc-s.or.jp'; 'nakusukai.01@saitama-k.com'; 'office05@ptatokyo.com'; 'jpta@Tokyo-Jpta.org'; 's-somu@tokyo-med.ac.jp'; 'mofrecruit@mof.go.jp'; 'finance@mof.go.jp'; 'zeisei@mof.go.jp'; 'zaisen@mof.go.jp'; 'zaishin@mof.go.jp'; 'gaitame@mof.go.jp'; 'pr@tv-tokyo.co.jp'; 'ameba_pub@cyberagent.co.jp'; 'account_cs@ameba.jp'; 'dogatch@presentcast.co.jp'; 'info@naturaleight.co.jp'; 'store@1101.com'
件名: 通達 (みと・あかつかカンファレンス) *メディア対策室 ; 安倍晋三 首相案件 (ムチン騒乱) 【情報操作】
分類項目: 分類項目 緑

国立研究開発法人理化学研究所 御中

学術秘書

池田です。

検事総長に指示し、騒乱罪（刑法 106 条）で公訴いたします。

補足説明

1. ムチン

糖タンパク質の一種で、動植物の粘液を構成する基本物質の総称^{注)}。古くからその存在は知られていたが、単一の物質ではなく、コラーゲン類などと同様、多種多様な一群の物質を指す。例えば、カタツムリやクラゲなどの体表、ヒトを含んだ哺乳類の目の表面、口腔、鼻などの呼吸器、胃や腸などの消化器の内壁などは粘膜で覆われているが、ムチンは、外からの刺激に弱い粘膜の保護、保湿、抗菌、異物除去といった粘液の主要な役割を分担する。ムチンは、タンパク質（ペプチド）の1本鎖の骨格に、枝状の糖鎖が多数結合している構造を持つ。動物、植物を問わず、それぞれの種が独自のムチンを持ち、その糖鎖やペプチド配列も多種多様であることが知られている^{注)}。近年では、ムチンの骨格ペプチドのアミノ酸配列が遺伝子レベルで確認されているが、どの位置に、どのような糖鎖が結合しているかを完全に分析することは現在の技術では困難で、ペプチド骨格を人工的に作製できても、天然の状態と同じ糖鎖を結合し、天然ムチンを人工的に合成することは不可能とされる。

注) 2009年4月15日時点での見解です。その後、解析技術が進歩し、2018年1月1日時点では、植物においてムチンは確認されていません。

http://www.riken.jp/pr/press/2009/20090415_2/

<補足説明>

※1 ムチン

糖タンパク質の一種。単位配列（タンデムリピート）の決まった繰り返し構造を持つタンパク質（ペプチド）のトレオニン残基またはセリン残基に、O-グリコシド結合により様々な糖鎖が結合している高分子化合物の総称。動植物には様々なムチンが存在している。タンパク質の鎖を糖が取り囲んでいるために、タンパク質分解酵素や酸で分解されにくく、水溶液は俗に言うネバネバ物質となる。植物であるレンコン、オクラなどに含まれているもの、動物の粘液に含まれているものなどがあるが、化合物の一群をムチンと総称するだけで、それぞれの構造や作用は大きく異なっていると考えられる。特にタンパク質部分と糖鎖部分の構造を確定できたムチンは今まで見いだされていない^{注)}。

粘液に含まれるムチンには、強い生理活性はないと思われているが、細菌やウイルスの表面に吸着し、その活動を抑制し、粘液内に取り込んで洗い流してしまう作用がある。このときに細菌などの表面にあるタンパク質をムチンの糖鎖が認識し、接着してしまうと考えられている。健康な胃液は、胃の中でピロリ菌の活動を抑制すると言われているが、この作用は主としてムチンによるものと考えられている。また最近では、肺や大腸などのガン細胞から発生する微量のムチンを測定したり、唾液中のムチンの状態を測定することによって、病理やアレルギーの状態を把握する研究も行われている。

注) 2007年6月1日時点での見解です。

http://www.riken.jp/~media/riken/pr/press/2007/20070601_1/20070601_1.pdf

理由：

<https://www.kitasato-u.ac.jp/sci/univ/chemistry/news/n20190125.html>

<http://nokyoko.jp/#norioka>

<http://acsec.co.jp/#首謀者>

ISSN 1349-1229

RIKEN NEWS

No. 315 September 2007

9

厄介者のクラゲから有用物質を発見！

p10 特集

JEM-EUSOが
超高エネルギー宇宙線の
正体を突き止める

p12 SPOT NEWS

分子一つと電極との接合状態を制御
有機単一分子素子実現への第一歩

p13 FACE

将棋から思考を探る研究者



医療への応用

そもそもムチンには、非常に多くの種類がある。動物の胃液や唾液などの消化液や、鼻や目の粘膜に含まれており、人体でも約12種類が確認されている。動物だけではなく、植物のオクラやヤマイモのねばねば物質の主成分もムチンだ。

<http://www.riken.jp/~media/riken/pr/publications/news/2007/rn200709.pdf#page=4>

ワードを入力

全て



時事オピニオン



連載コラム



時事用語



雑学事典

[TOP](#) > [時事用語事典](#) > [イミダス編](#) [社会・健康](#) > [ムチン（クニウムチン）](#)

時事用語事典

| **ムチン（クニウムチン）**

[mucin;Qniumucin]

2007/06

ムチンとは、動物の消化器官などの粘膜や**植物のぬめりに含まれる**、糖たんぱく質の総称。特定の繰り返しびついた高分子化合物。ムチンには細菌やウイルスに吸着して洗い流す抗菌作用や、保湿作用があることわかるが、合成が難しいことから大量生産ができなかった。このムチンの一種が、エチゼンクラゲやミズクラゲ和化工株式会社の共同研究グループが発見。近年、大量発生して深刻な漁業被害を引き起こしているエチゼン。なお、今回発見されたムチンは、古事記の巻頭「国生み」神話に「くらげなす」という表記があること命名された。

<https://imidas.jp/hotkeyword/detail/F-00-411-07-06-H015.html>

厄介者の巨大クラゲから、有用ネバネバ成分を抽出！

2007年11月8日

**（独）理化学研究所 中央研究所 環境ソフトマテリアル研究ユニット
丑田 公規 ユニットリーダー**

地球温暖化が影響しているのか、数年来、日本海で巨大クラゲが大量発生している。クラゲの傘の直径は1メートルにも達し、重さは100キロ以上。暖流の対馬海流に乗って日本海を北上してくるのだが、その際に、定置網や魚を傷つけ、漁業に深刻な影響を与えている。ミズクラゲなどの小さなクラゲが大量発生すると、海水を冷却水に用いている沿岸部の原子力発電所や火力発電所が運転停止に追い込まれることもあるという。その量と大きさから、駆除や解体、廃棄もままならないなかで、クラゲの体から、医薬品や食品添加物として使えるような有用物質を抽出するのに成功した研究者があらわれた。（独）理化学研究所 中央研究所 環境ソフトマテリアル研究ユニットの丑田公規ユニットリーダー（以下、UL）である。



定置網に大量捕獲されたエチゼンクラゲの撤去作業（京都府京丹後市三津沖）。| 拡大する

丑田ULらが抽出したのは、糖タンパク質であるムチンの一種。ムチンは動物の粘液や、**里芋、オクラなどに含まれる**ネバネバ成分の総称で、何千種類もあるとされる。抗菌作用や保湿効果をもつことから、すでに化粧品などに利用されているものもあるが、構造が明らかにされていないものがほとんどだという。今回、丑田ULらが新たに発見したのは、ヒトの胃液などの主成分である「MUC5AC」とよばれるムチンによく似たものだという。古事記のなかに出てくる「久羅下」にちなみ、「国を生む」という日本語をもじって「クニウムチン」と名付けられた。

<https://www.natureasia.com/ja-jp/jobs/tokushu/detail/48>

(19) 日本国特許庁(JP)

再公表特許(A1)

(11) 国際公開番号

WO2007/020889

発行日 平成21年2月26日(2009.2.26)

(43) 国際公開日 平成19年2月22日(2007.2.22)

(51) Int. Cl.	F I	テーマコード (参考)
C07K 7/06 (2006.01)	C07K 7/06 ZNA	4B064
C12P 21/02 (2006.01)	C12P 21/02 B	4C081
A61K 38/00 (2006.01)	A61K 37/02	4C083
A61P 17/16 (2006.01)	A61P 17/16	4C084
A61L 27/00 (2006.01)	A61L 27/00 V	4H045
	審査請求 未請求 予備審査請求 未請求 (全 32 頁)	最終頁に続く

出願番号 特願2007-530979 (P2007-530979)	(71) 出願人 503359821
(21) 国際出願番号 PCT/JP2006/315939	独立行政法人理化学研究所
(22) 国際出願日 平成18年8月11日(2006.8.11)	埼玉県和光市広沢2番1号
(31) 優先権主張番号 特願2005-234108 (P2005-234108)	(74) 代理人 100091096
(32) 優先日 平成17年8月12日(2005.8.12)	弁理士 平木 祐輔
(33) 優先権主張国 日本国(JP)	(74) 代理人 100096183
	弁理士 石井 貞次
	(74) 代理人 100118773
	弁理士 藤田 輝
	(72) 発明者 丑田 公規
	埼玉県和光市広沢2番1号 独立行政法人
	理化学研究所内
	(72) 発明者 益田 晶子
	埼玉県和光市広沢2番1号 独立行政法人
	理化学研究所内
	最終頁に続く

(54) 【発明の名称】新規ムチン型糖タンパク質及びその用途

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、新規ムチン型糖タンパク質及びその製造方法に関する。また本発明は、新規ムチン型糖タンパク質を含む組成物に関する。さらに本発明は新規ムチン型糖タンパク質を含む分子量マーカーに関する。

【背景技術】

【0002】

糖タンパク質のうち、単純な繰り返し構造を持つペプチド鎖に、1個あるいは10個程度までの単糖からなる糖鎖がO-グリコシド結合で周期的に結合している、高分子糖タンパク質化合物をムチン類と総称している。ムチン類は、細胞や動植物の粘液の成分として自然界に多種存在し、生体系において様々な重要な働きをすることが知られている。また、動植物に由来し、食品中の粘液成分にふくまれるムチン類は、それを食物として摂取した場合にも、生命活動や消化吸収作用において重要な生体作用をもたらすことが知られている。

【0003】

現在、ヒトにおいて約10種類のムチン類が同定されており、唾液、胃粘膜など、主として粘膜部分に分布し存在する。このムチン類で形成される粘膜組織の生物学的役割は、細胞組織の保湿、保護、潤滑などの物理的作用の他、細胞外マトリックスとして抗菌効果を示し、ウイルスなどの感染を抑える働きを有する(非特許文献1及び2)。

<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/web/all/top/BTmTopPage>



Shell Licensee

カーライフサポート

ビジネスソリューション

ホームソリューション

プレスリリース

2017

2016

2015

2014

クラゲコラーゲン・ムチン供給の共同事業化について

～国内唯一の生産者として化粧品・医療品・食料品の原料成分を供給～

2019/03/04

昭和シェル石油株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員 CEO：亀岡剛、以下社：神奈川県川崎市、代表取締役：木平孝治、以下「海月研究所」）および丸和油脂株式会社³（以下「丸和油脂」）とクラゲの採取およびコラーゲンやムチンなどの化粧品・医療品・食料品について合意するとともに、このたび、海月研究所に対して出資（出資比率51.72%）を

http://www.showa-shell.co.jp/press_release/pr2019/0304.html?utm_medium=referral&utm_source=rss

では。

この件に関するお問い合わせ先：

みと・あかつかカンファレンス事務局長

ラクトース研究班「いもいち 2025」班長代理

有限会社学術秘書

本店営業部

池田剛士

〒311-4141

茨城県水戸市赤塚 1-386-1-107

電話：029-254-7189

携帯：090-4134-7927

追補：訂正報道新着

<http://kankan2025.jp/>

みと・あかつかカンファレンス

差出人: みと・あかつかカンファレンス <admin@kankan2025.jp>
送信日時: 2019年3月6日水曜日 10:32
宛先: 'inform@jfish-lab.com'
CC: '日本栄養士会'; '日本医師会'; '日本薬剤師会'; '日本歯科医師会'; '日本看護協会'; '日本理学療法士協会'; '日本作業療法士協会'; '日本社会福祉士会'; '日本介護福祉士会'; '立川 晶'; '朝倉 洋'; '生田 弦己'; '江川 剛正'; '佐藤 仁彦'; '越田 普之'; '平野 有紀'; '大林 広樹'; '茨城県警察本部'; 'クローズアップ現代 +'; '湯川 英俊'; '池田 剛士'; 'hokkaido@yomiuri.com'; 'hakodate@yomiuri.com'; 'asahikawa@yomiuri.com'; 'kushiro@yomiuri.com'; 'otaru@yomiuri.com'; 'kitami@yomiuri.com'; 'tomakomai@yomiuri.com'; 'iwamizawa@yomiuri.com'; 'aomori@yomiuri.com'; 'morioka@yomiuri.com'; 'tohoku@yomiuri.com'; 'akita@yomiuri.com'; 'yamagata@yomiuri.com'; 'fukushim@yomiuri.com'; 'mito@yomiuri.com'; 'utsunomiya@yomiuri.com'; 'saitama@yomiuri.com'; 'chiba@yomiuri.com'; 'tomin@yomiuri.com'; 'koto@yomiuri.com'; 'musasino@yomiuri.com'; 'tachikawa@yomiuri.com'; 'hachioji@yomiuri.com'; 'yokohama@yomiuri.com'; 'niigata@yomiuri.com'; 'toyama@yomiuri.com'; 'kanazawa@yomiuri.com'; 'fukui@yomiuri.com'; 'kofu@yomiuri.com'; 'nagano@yomiuri.com'; 'gifu@yomiuri.com'; 'shizuoka@yomiuri.com'; 'chubu@yomiuri.com'; 'tsu@yomiuri.com'; 'otsu@yomiuri.com'; 'kyoto@yomiuri.com'; 'osaka2@yomiuri.com'; 'kobe@yomiuri.com'; 'nara@yomiuri.com'; 'wakayama@yomiuri.com'; 'tottori@yomiuri.com'; 'matsue@yomiuri.com'; 'okayama@yomiuri.com'; 'hiroshima@yomiuri.com'; 'yamaguchi@yomiuri.com'; 'tokushim@yomiuri.com'; 'takamatsu@yomiuri.com'; 'matsuyama@yomiuri.com'; 'kochi@yomiuri.com'; 's-syaka1@yomiuri.com'; 'saga@yomiuri.com'; 'nagasaki@yomiuri.com'; 'kumamoto@yomiuri.com'; 'oita@yomiuri.com'; 'miyazaki@yomiuri.com'; 'kagoshim@yomiuri.com'; 'naha@yomiuri.com'; 'jbs-ho@jbsoc.or.jp'; 'nihonpta@coral.ocn.ne.jp'; 'webmaster@shodanren.gr.jp'; 'webmaster@coj.gr.jp'; 'info@kc-s.or.jp'; 'nakusukai.01@saitama-k.com'; 'office05@ptatokyo.com'; 'jpta@Tokyo-Jpta.org'; 's-somu@tokyo-med.ac.jp'; 'mofrecruit@mof.go.jp'; 'finance@mof.go.jp'; 'zeisei@mof.go.jp'; 'zaisen@mof.go.jp'; 'zaishin@mof.go.jp'; 'gaitame@mof.go.jp'; 'pr@tv-tokyo.co.jp'; 'ameba_pub@cyberagent.co.jp'; 'account_cs@ameba.jp'; 'dogatch@presentcast.co.jp'; 'info@naturaleight.co.jp'; 'store@1101.com'
件名: 通達 (みと・あかつかカンファレンス) *メディア対策室 ; 安倍晋三 首相案件 (ムチン騒乱) 【研究不正】
分類項目: 分類項目 緑

株式会社海月研究所 御中

学術秘書

池田です。

検事総長に指示し、騒乱罪（刑法 106 条）で公訴いたします。

2018.12.25 21:00

クラゲムチン



私たちは、クラゲから「ムチン」を抽出しています。

「ムチン」とは、mucosを語源に持つ、動物の粘液のことです。

また「ムチン」は目や胃などの体の表面に多く存在していることから

外部からのウイルスや微生物の侵入を防ぐ感染防除の役割を担っていると考えられています。

「ムチン」の主成分は、ムチン型糖タンパク質という化学物質ですが、

実は植物には存在しないことが明らかにされています。

オクラ、なめこのネバネバは多糖類、

納豆のネバネバはポリグルタミン酸が

それぞれの主成分です。

名称がなんであろうと体に良ければそれでよいのですが、

<https://www.jf-col.net/posts/5446423>

理由：

<https://www.kitasato-u.ac.jp/sci/univ/chemistry/news/n20190125.html>

ワードを入力

全て



時事オピニオン



連載コラム



時事用語



雑学事典

[TOP](#) > [時事用語事典](#) > [イミダス編](#) [社会・健康](#) > [ムチン（クニウムチン）](#)



時事用語事典

ムチン（クニウムチン）

[mucin;Qniumucin]

2007/06

ムチンとは、動物の消化器官などの粘膜や植物のぬめりに含まれる、糖たんぱく質の総称。特定の繰り返しびついた高分子化合物。ムチンには細菌やウイルスに吸着して洗い流す抗菌作用や、保湿作用があることか
るが、合成が難しいことから大量生産ができなかった。このムチンの一種が、エチゼンクラゲやミズクラゲ
和化工株式会社の共同研究グループが発見。近年、大量発生して深刻な漁業被害を引き起こしているエチゼ
た。なお、今回発見されたムチンは、古事記の巻頭「国生み」神話に「くらげなす」という表記があること
命名された。

<https://imidás.jp/hotkeyword/detail/F-00-411-07-06-H015.html>

厄介者の巨大クラゲから、有用ネバネバ成分を抽出！

2007年11月8日

**（独）理化学研究所 中央研究所 環境ソフトマテリアル研究ユニット
丑田 公規 ユニットリーダー**

地球温暖化が影響しているのか、数年来、日本海で巨大クラゲが大量発生している。クラゲの傘の直径は1メートルにも達し、重さは100キロ以上。暖流の対馬海流に乗って日本海を北上してくるのだが、その際に、定置網や魚を傷つけ、漁業に深刻な影響を与えている。ミズクラゲなどの小さなクラゲが大量発生すると、海水を冷却水に用いている沿岸部の原子力発電所や火力発電所が運転停止に追い込まれることもあるという。その量と大きさから、駆除や解体、廃棄もままならないなかで、クラゲの体から、医薬品や食品添加物として使えるような有用物質を抽出するのに成功した研究者があらわれた。（独）理化学研究所 中央研究所 環境ソフトマテリアル研究ユニットの丑田公規ユニットリーダー（以下、UL）である。



定置網に大量捕獲されたエチゼンクラゲの撤去作業（京都府京丹後市三津沖）。| 拡大する

丑田ULらが抽出したのは、糖タンパク質であるムチンの一種。ムチンは動物の粘液や、**里芋、オクラなどに含まれる**ネバネバ成分の総称で、何千種類もあるとされる。抗菌作用や保湿効果をもつことから、すでに化粧品などに利用されているものもあるが、構造が明らかにされていないものがほとんどだという。今回、丑田ULらが新たに発見したのは、ヒトの胃液などの主成分である「MUC5AC」とよばれるムチンによく似たものだという。古事記のなかに出てくる「久羅下」にちなみ、「国を生む」という日本語をもじって「クニウムチン」と名付けられた。

<https://www.natureasia.com/ja-jp/jobs/tokushu/detail/48>

(19) 日本国特許庁(JP)

再公表特許(A1)

(11) 国際公開番号

WO2007/020889

発行日 平成21年2月26日(2009.2.26)

(43) 国際公開日 平成19年2月22日(2007.2.22)

(51) Int. Cl.	F I	テーマコード (参考)
C07K 7/06 (2006.01)	C07K 7/06 ZNA	4B064
C12P 21/02 (2006.01)	C12P 21/02 B	4C081
A61K 38/00 (2006.01)	A61K 37/02	4C083
A61P 17/16 (2006.01)	A61P 17/16	4C084
A61L 27/00 (2006.01)	A61L 27/00 V	4H045
	審査請求 未請求 予備審査請求 未請求 (全 32 頁)	最終頁に続く

出願番号	特願2007-530979 (P2007-530979)	(71) 出願人	503359821
(21) 国際出願番号	PCT/JP2006/315939		独立行政法人理化学研究所
(22) 国際出願日	平成18年8月11日(2006.8.11)		埼玉県和光市広沢2番1号
(31) 優先権主張番号	特願2005-234108 (P2005-234108)	(74) 代理人	100091096
(32) 優先日	平成17年8月12日(2005.8.12)		弁理士 平木 祐輔
(33) 優先権主張国	日本国 (JP)	(74) 代理人	100096183
			弁理士 石井 貞次
		(74) 代理人	100118773
			弁理士 藤田 輝
		(72) 発明者	丑田 公規
			埼玉県和光市広沢2番1号 独立行政法人
			理化学研究所内
		(72) 発明者	益田 晶子
			埼玉県和光市広沢2番1号 独立行政法人
			理化学研究所内
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 新規ムチン型糖タンパク質及びその用途

【発明の詳細な説明】

40

【技術分野】

【0001】

本発明は、新規ムチン型糖タンパク質及びその製造方法に関する。また本発明は、新規ムチン型糖タンパク質を含む組成物に関する。さらに本発明は新規ムチン型糖タンパク質を含む分子量マーカーに関する。

【背景技術】

【0002】

糖タンパク質のうち、単純な繰り返し構造を持つペプチド鎖に、1個あるいは10個程度までの単糖からなる糖鎖がO-グリコシド結合で周期的に結合している、高分子糖タンパク質化合物をムチン類と総称している。ムチン類は、細胞や動植物の粘液の成分として

50

自然界に多種存在し、生体系において様々な重要な働きをすることが知られている。また、動植物に由来し、食品中の粘液成分にふくまれるムチン類は、それを食物として摂取した場合にも、生命活動や消化吸収作用において重要な生体作用をもたらすことが知られている。

【0003】

現在、ヒトにおいて約10種類のムチン類が同定されており、唾液、胃粘膜など、主として粘膜部分に分布し存在する。このムチン類で形成される粘膜組織の生物学的役割は、細胞組織の保湿、保護、潤滑などの物理的作用の他、細胞外マトリックスとして抗菌効果を示し、ウイルスなどの感染を抑える働きを有する(非特許文献1及び2)。

<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/web/all/top/BTmTopPage>



Shell Licensee

カーライフサポート

ビジネスソリューション

ホームソリューション

プレスリリース

2017

2016

2015

2014

クラゲコラーゲン・ムチン供給の共同事業化について

～国内唯一の生産者として化粧品・医療品・食料品の原料成分を供給～

2019/03/04

昭和シェル石油株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員 CEO：亀岡剛、以下社：神奈川県川崎市、代表取締役：木平孝治、以下「海月研究所」）および丸和油脂株式会社³（以下「丸和油脂」）とクラゲの採取およびコラーゲンやムチンなどの化粧品・医療品・食料品について合意するとともに、このたび、海月研究所に対して出資（出資比率51.72%）を

http://www.showa-shell.co.jp/press_release/pr2019/0304.html?utm_medium=referral&utm_source=rss

では。

この件に関するお問い合わせ先：

みと・あかつかカンファレンス事務局長
ラクトース研究班「いもいち 2025」班長代理
有限会社学術秘書

本店営業部

池田剛士

〒311-4141

茨城県水戸市赤塚 1-386-1-107

電話：029-254-7189

携帯：090-4134-7927

追補：訂正報道新着

<http://kankan2025.jp/>